

国際交流事後活動ニュース

# MACRO COSM

©カラー特集 内閣府青年国際交流事業報告会

マクロコズム 2003.7



vol. 53

(財)青少年国際交流推進センター

## 内閣府青年国際交流事業報告会

内閣府青年国際交流事業の参加青年による事業報告会は、内閣府によって各派遣事業毎に東京で開催される他に、各都道府県青年国際交流機構によって各地域で開催されています。

事業参加者のまとめになることはもちろんのこと、広く事業を知らしめるとともに、事後活動の第一歩として大切な場になっています。



ファッションショー  
◀ (8か国の民族衣装が華やかに)



各派遣国の展示ブースをPR ▶

### 平成14年度航空機による派遣事業報告会

(平成15年2月2日 於：(独)国立オリンピック記念青少年総合センター)

▼ タンザニアでの活動を来場者に報告



▼ モロッコ団の展示ブース



第29回「東南アジア青年の船」事業報告会（平成15年2月9日）



参加青年と来場者とのトークセッションの様子

アセアンでも大好評の「南京玉すだれ」の披露



マレーシアの紹介ブース前で説明を行う大西実行委員長と佐々木副実行委員長



▶ インドネシア参加青年から教わった「インダングダンス」の披露

第15回「世界青年の船」事業報告会（平成15年3月2日）



▲ 第15回「世界青年の船」日本参加青年約90名が当日集まりました



▲ 内閣府政策統括官山本参事官のご挨拶

（次ページへ続く）

# 内閣府青年国際交流事業報告会



▲ 参加青年の体験を展示ブースで発表



▲ テーマ別分科会での懇談の様子

## 〈各都道府県青年国際交流機構が実施した報告会〉



▲ 宮城青年国際交流機構



▲ 埼玉県青年国際交流機構



愛知県青年国際交流機構



## 国際交流体験をどう活かすか？

～講義とワークショップ～

講師：中野 民夫 氏



▲ 左端が中野民夫氏

中野民夫と申します。今日は20～30分で簡単なワークショップの発展史やさまざまな分類、とりあえずの定義、そしてワークショップ全般に共通する特徴、そして有効な学びを起こすための必至条件、応用といった話をしたいと思っています。「ワークショップ」という言葉は、もともと「工房」、「仕事場」、「共同作業場」という意味です。つまり一緒に何かを作るところです。そしてワー

クショップはいろんな分野で発展してきましたが、一つは現代演劇の中で発展してきたと言われていいます。専門家による演劇＝演じる人と観る人がまったく別というものから、もっと演劇は誰にでもできるのではないかという考え方の中で、あるテーマを決めて演出家や俳優を中心に、専門ではない人も参加して、自由な討論や交流をおこなったり、あるいは何かドラマの一シーンを作ったり、結果ではなく、そういうことを共有する中で学んだりするということが行われてきていました。

また、現代・美術アートの世界でも非常に早くからワークショップという言葉が使われています。やはり美術における指導が上から下への教師の技術的な一方通行に偏っていたことを改めて、もっとお互いが交流したり創造的な精神の場を優先させるようなワークショップ的な場ができています。今いろいろな美術館や博物館にワーク工房が最後になって、みんなで何かを作ったり陶芸教室からはじまって絵葉書を一緒に作ったり、写真美術館

### 主な内容

国際交流体験をどう活かすか？……………5～9	埼玉県IYEOの報告会を終えて……………13
インド料理&舞踏教室……………10	近畿リーダーズフォーラムから生れたもの ～チャリティフリーマーケット開催～…14～15
出会い、ふれあい体験を、 広島IYEOより発信……………11	坂本 達さんを迎えて……………16
「100人村」を通して見えてきた世界……………12	お知らせページ(全国大会他)……………17～20

〈表紙の説明〉  
第15回「世界青年の船」  
課題別視察  
西新宿小学校にて

## 第31回「青少年国際理解セミナー」

で自分たちで写真を撮ってくるとか、ただ観るだけ、聞くだけではないということがいろいろなところで行われています。

3番目の流れはまちづくりです。都市計画。1960年代にアメリカの景観デザイナー、ローレンス・ハルプリンが考案したと言われていますが、もともと多様な民族や宗教観が錯綜しているアメリカで価値観の異なる人々がどうやって共同でより良い環境を作っていくのかということで発案されてきたシステムだと言われていています。参加者が共通して理解できる感覚的事項、例えば一緒にタウンウォッチングをしてここはいい感じだねとか、これはちょっと残念だねとかそういうことから始めて、一緒に何か体験をしていく中で、信頼関係を構築しながらどうやったらいいんだろうというのを創造的な成果に集約していくということです。

今日本全国で住民参加のまちづくりということが非常に言われてまして、単に行政が一方向的に良かれと思って地元の人とは、ずれてしまうというものを創るのではなくて、一緒に創っていくと、住民参加のまちづくりが急に日本中で行われてきています。

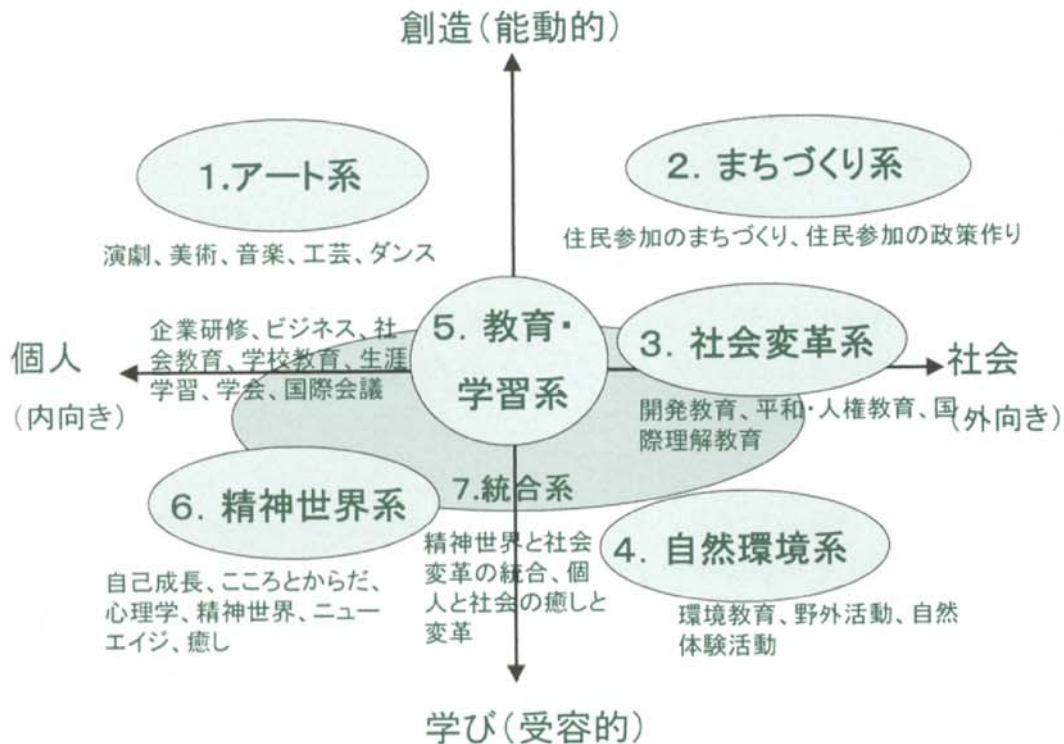
あともう一つ、発展史4番目を挙げるとしたら心理学とか人間関係トレーニングというものがあると思います。「Tグループ」とか「Encounterグループ」という出会いを丁寧にやるグループ・ワークというのがいろいろ開発されてきていますが、そういう中で人が肩書きやいろいろなものから自由になって対等に出会っていく、自分の思いや行動を率直にその関係の中で始めていくということから広がる人間関係作りみたいなことが、いろんなワークの中で行われてきています。

このようにワークショップはもともと「工房」という意味が、現代演劇、美術、まちづくりそして人間関係トレーニング等で発展してきて、最近では実に多様な分野で展開しています。

例えば環境教育や、自然体験活動、国際理解教育、平和人権教育、それから心と体ですとか心理学、癒しや自己成長、社会教育や学校教育、学会、国際会議、企業研修等本当にいろいろな場に広がっていると思います。いろいろワークショップはありますが、整理を考えました。

縦の軸、上のほうが創造・能動的と書きましたけれども、何か物事を形にして作りだしていくのを大事にしている世界です。何か計画を作るとか、あるいは作品を作るということ。形にしたアウトプットが大事だという創造・能動的なものです。下のほうに学び受容的、人を理解するとか自然を深く感じるとか、そういう感じたり受け入れたりすること自身が大事だというワークショップの方向もあります。そういう上と下の軸、あと左右はですね、非常に個人の内的な成長、個人の癒しだとか心理的な体験ですとか、自分の体に深く気付くだとかそういう個人向きなもの、もう一方は外向き社会向きでこの世の中をもっと何とかしたい、具体的に変えていきたい、社会変革を目指すような動きです。

どれも人間にとって根源的な欲求で、どれが良いとか悪いとかもちろんないのですが、こういう軸を作ってみると、左上が個人の内面を表現するもの、右上が社会を変革していくという感じ、右下が社会や自然を体験し感じたり学ぶ、左下が個人の内面を深めるという形になると思います。こ



ういう座標に添って私の知る限り日本でいろいろ行われているワークショップを整理してみると、左上にアート系、個人でアウトプットのものを表現するという形です。これは演劇や美術、音楽、工芸、ダンス、たくさんのものが行われています。右側のほうが社会寄り、アウトプット創造的なもの、これはまちづくり系で、さきほどの住民参加のまちづくり、これが今政策作りとかでも行われてきています。

3番目が社会変革系、これがこちらにも関係してくると思いますけれども、開発教育や平和・人権、教育、国際理解教育とかで感じることも大事だけれども本当に何か社会にも働きかけていこうというようなことです。4番目が右下の自然環境系で、環境教育、野外教育、自然体験活動。この頃

センス・オブ・ワンダーという言葉が聞かれますけれども、不思議さに目を見張る感性というか、自然が大事だとか、言葉で言うより自然の豊さを感じてこれを大事にしたいという気持ちが起こらないと、なかなか根源的な動きや力にならないということで、今自然体験が大事だとすごく言われ直していますが、そういうような傾向のものです。

5番目に教育・学習系とまとめましたが、これは今までの先生が上から下に教えるだけではないかと、もっと何か引き出したり一緒にできないかということで問い直されているもので、いろんなものを入れてしまいました。企業研修、ビジネス、社会教育、学校教育、生涯学習、学会、国際会議、今までの教育と学習の学びのスタイルをちょっと問い直しているものです。

## 第31回「青少年国際理解セミナー」

6番目が個人向き、内向きで、学び・受容的ということで、精神世界系としましたが、自己成長、こころとからだ、心理学、精神世界。こちらはこれだけでもいろんな雑多なものがあります。自己、自分磨き系とでもいえるのでしょうか。あやしいものからまともなものまで雑多にあります。そういう世界が一つあります。

7番目に、統合系と書きましたが、このもともと自分自身をなんとか納得できるものにして、自分の人生を十全に生きたいという思いと、その私たちが生きる社会を何とかしたいという願いは、みんなにとって根源的なものなのですが、これを分けがちなんです。もともとこの精神世界と社会変革というのは一つであるということや、個人と社会の癒しは別ではないということで、最初からそういう視点でやっているものを仮に統合系としました。

このようにいろんな社会でワークショップというものが広がっていますので、単純に定義する事はできません。ただ、共通するところと私なりに感じているところを仮にまとめてみました。講義など一方的な知識伝達スタイルではなく、参加者が自ら「参加」したり、「体験」したり、グループの「相互作用」の中で、何かを学びあったり創り出したりする、そういう双方向的な学びと創造のスタイルではないかと思っています。一方的な知識伝達ではない、参加や体験や相互作用が大事であり、そういう双方向のスタイルがあります。参加体験型のグループ学習と言っていたときもあります。ですので、ワークショップに共通する特徴は、「参加」と「体験」と「相互作用」この3つだと思っています。

「参加」というのは、読んで字の如しですが、自分が参加して関わっていくということです。ワークショップには先生というその特別な知識を持っていて教えるという立場の人はいません。先生がいないと生徒もいないわけで、参加者というものが平たい場にいるわけです。参加者はただ受身的に話を聞くだけではなく、自ら主体的にプログラムに参加していく積極的な姿勢が不可欠です。後ろの方に座っておもしろかったら聞こうというふうに斜に構えている。みんながそれだとその場は盛り上がりません。そういう参加意欲が双方向の活発な場を作るとのことです。ですので、一般のワークショップ、今日みたいに皆さんが自分の意志と判断で貴重な時間やお金を使って参加する場合は、最初から学んでやろうという意欲が高いのでいいですね。

2番目の特徴「体験」ですが、言葉を使って頭で考えるというだけではなく、いろんな体験を重視します。五感を使って自然を感じたり、ちょっと目をつぶって音に注意を向けてみようということから始めたり、いろんな五感を開いていったりします。タウン・ウォッチングでいつも何気なく通っている町をいろんな視点からもう一回見なおしてみる、全身で動き回るゲームをやったりしてみる、ロール・プレイのように普段自分とは違う役割を演じてみたり、ちょっと非日常的な中で身体を使ったり心を使ったり、ボディ、マインド、スピリット、エモーションと言われたりします。

ボディ＝身体、体にあたるもの、マインド＝よく心といわれますが、この対比の中ではどちらかというところを考えると考える心なので知性とか頭というふうに理解していただけるといいと思います。それから



スピリット＝直感とか霊性、自分たちがもっと大きなものの中に生かされているとか、つながっているというような感じる心だとか、エモーション＝これも感情、ハートと書きましたが感じる心の方です。こういういろんな要素、4つで整理してこれだけでいいのかとも思いますが、いろんな要素があるのに普段我々が何か考えたり一緒にやる時は、どうしても知性偏重です。言葉によって整理されること、理屈みたいなものが優先で事が動いていってしまう。それで本当に街のことを論じてもいいのか、戦争のこともそうですけども、理屈で詰めていくと絶対納得できないという気持ちが起こってくるわけで、もっとそういういろんな要素を扱うような総括的な視点が必要ではないかと思えます。

そして次ですが、ただ体験すればいいのではなく、体験した事を実際に振り返って観てみる、指摘して観てみる、その間で気づきが起こります。それからそれを考えてみる、分析してみるとそこでまた気づきがあります。そして自分で考えた事は少しまとめて次にいろんなものに応用していくというふうに概念化することもできます。それがまた次の新たな体験を導いていくというように、体験学習といってもやればよいというわけではな

く、それを適切な形で振り返ったり考えたり、次を考えたりという事をきちんと用意しないとかなかなか学びが深まっていけないわけです。この辺がワークショップではかなり考えられているということです。

ワークショップ3つ目の特徴は「相互作用」です。これは一方向ではなく、お互いから学びあう、よくシナジーという言葉が言われたりしますが、エネルギーではなくて、 $1 + 1 = 2$ ではなく3以上のように、単純な総和を超えた相乗効果、そういう力がお互いの中で起こってきます。それから、グループダイナミクスという言葉もあります。グループならではの力学、体験を一緒にやったり、合意形成に必要な共同作業を喧々諤々やって意見をすり合わせたり、お互いが感じたことを分かち合ったりするシェアリング、そういういろんな場で自分とは違う感じ方をする人がいるんだなあと、そういう他者から人は学んでいったりすると思います。相互作用の中からいろんなシナジーとかコラボレーションが出てくるというイメージです。

ここまでが前半ですので、講義はいったんここで閉じて、ミニワークショップに行きたいと思えます。

(次号に続く)

### 中野民夫氏紹介

- ◇ワークショップ企画プロデューサー&会社員(株博報堂勤務)
- ◇社団法人日本環境教育フォーラム理事、日本トランスパーソナル学会理事
- ◇埼玉大学・千葉大学非常勤講師

主著：『ワークショップ 新しい学びと創造の場』(岩波新書、2001年)

『ファシリテーション革命 参加型の場づくりの技法』(岩波アクティブ新書)

## インド料理 & 舞踊教室

第14回「世界青年の船」参加青年 木南圭映子  
(広島県 IYEO)

広島県 IYEO では、2月16日、広島国際プラザ（東広島市鏡山）で「インド料理&舞踊教室」を開催しました。この日は、IYEO 会員の他に学生や留学生の参加もあり、共に楽しい時間を過ごしました。

インド料理・インド舞踊を教えてくれたのは、広島大学客員研究員のルパさんです。インド料理といえばお馴染みの「チキンカレー」と、甘くて不思議な味の「トマトカレー」を教わりました。もちろん、既製のカレールーは使いません。調理が始まると、数種のスパイスが次々と加えられ、会場はやがて“インドの香り”に包まれました。調理の後は、おまちかねの試食タイムです。「おいしい!」「意外に簡単!」「今度自分でも作ってみよう」などなど、大好評でした。\*作り方については別記〈レシピ〉をご参照ください。

休憩を挟み、午後からはインド舞踊に挑戦しました。ルパさんの踊る様子を見ると実に簡単そう

なのですが、実際にやってみると、なかなかうまくできません。慣れない動きに苦労しつつも、軽快な音楽にのってみんなで輪になって踊りました。

今回のこの催しは、「地域に住む外国の方との交流を持とう」ということで企画したものです。広島県 IYEO では、派遣や受け入れといった既存の活動に加え、地域の身近なところでの活動も広げていきたいと話合ってきました。そこで、IYEO 会員以外にも参加者を募り、この「インド料理&舞踊教室」を実施しました。

また、会場には、内閣府青年国際交流事業や IYEO の活動について紹介するパネルを展示し、事業や IYEO の PR も行いました。展示したパネルは、募集説明会・帰国報告会にあわせて広島県 IYEO で行っている「内閣府青年国際交流事業紹介パネル展」の際に作成したのですが、こういった機会にも展示をすることで、もっと多くの人に事業について知ってもらえたらと思っています。

〈レシピ〉

材料 (3~4人前)	スパイスペースト (量は好みで調整)
鶏肉 1kg	ジンジャーペースト・にんにく (刻む)
たまねぎ 1個	チリパウダー・コリアンダー・ターメリック・
トマト 1~2個	ミートカリースパイス 塩・砂糖
ピーマン 1~2個	ローリエ 3~4枚・ヨーグルト 50~100g
じゃがいも 2~3個	

- ①材料を切る。トマトとたまねぎは1センチ角くらい。その他は食べやすい大きさに。
- ②切った材料 (じゃがいも以外) を大きめのボールに入れ、スパイスペーストを加え、混ぜる。
- ③深めのフライパン (もしくは鍋) に油 (多め) を熱し、じゃがいもを入れ、焼き色がついたら取り出しておく。残った油は捨てない。
- ④同じフライパンに②を入れ、しばらく炒める。
- ⑤水 (1カップ) を加え、じゃがいもを戻し、20~30分くらい煮込む。(じゃがいもに火が通るまで。)

〈日程〉 於：広島国際プラザ（東広島市鏡山）

11:00～	受 付
11:30～	「料理の部」 自己紹介 説明・調理
13:00～	試 食 会 片付け・休憩（民族衣装サリーの着付け他）
14:30～	「舞踊の部」 休憩時 展示内容の紹介 他
17:00	終 了

## 出会い、ふれあい体験を、広島県IYEOより発信

第14回「世界青年の船」 南 智子

2月8日、9日で、私たち広島県IYEOは、いつもの活動の拠点である広島市を飛び出し、備後地方へと向かいました。1日目は、広島県福山市の鞆の浦（ともうら）という瀬戸内海に面する美しい所に赴きました。ここで予定されていたのが、今年度の事業参加報告を兼ねた、お隣の県である岡山県青年国際交流会（IYEO）との交流会でした。IYEOとの交流会は現活動会員の記憶にある限りでは初めて行われ、また時間も限られていたこともあり、残念ながら日ごろの活動状況などの交換といった、もう一步踏み込んだ所まではできませんでした。しかし、新たな出会いの機会が得られ、これからの活動により広い視野をもって取り組んでいくことがプラスの意味で、課題となったように思います。また、今年度参加青年の報告は非常に内容も充実していて、自分が参加した時の気持ちを再び思い出させてくれるものでした。新たな仲間を迎え、これからの広島県IYEO、また中国ブロックの更なる活性化へとつなげていかなければと再認識しました。

翌日は、IYEOのメンバーと別れ、私たちは

備前焼の体験に行きました。国際理解を考える上で、自国文化理解も重要視すべきではないかと考える私にとって、とても貴重な体験でした。初めて土をさわり、作り方がわからない中で窯元の方に教えていただきながらも、私が手を加えることによってどんどんと形を変えていくことに、かなりの感動を覚えました。しかし、なかなか自分の思い通りには仕上がっていかないことに、もどかしさも感じました。「手の加え方、心の持ち方一つで、全く違う形に変わる。時間をかけ、心を込めて作ったものは、いつまでも大切にしたいと思うようになる。」物作りにとどまらず、どこか、私たちの活動の起点ともいえるようなそんな気持ちを、呼び起こしてくれたように思いました。

この二日間で私が感じ、得たものは大きかったと思います。他のメンバーも同様であったのではないかと思います。「楽しさ」に加えて「学ぶこと」のできた二日間でした。そんな企画の計画・実施に携わってくださった方々に、とても感謝しています。

## 「100人村」を通して見えてきた世界～東京都IYEO主催 講演会報告～

(東京都IYEO企画部長  
1999年デンマーク派遣団員 松本 祐子)

な意見が多数寄せられました。

今回、参加者が集まる講演会の機会を生かして、何か具体的にできることをしたいと考えていた私達スタッフは、講演会後の会場で、募金を兼ねた100人村グッズの即売会を行いました。その売り上げの一部、¥9,960を、アルイルム女学院基金に寄付させて頂きました。アルイルム女学院は、パキスタン北西部のアフガン難民キャンプ、シャムシャット・オールドキャンプに作られた、初めての女子中等教育機関です。この世界を少しでも良くするための“大きな鍵＝女子教育”、現地の深刻な女子中学校不足を改善するため、池田さんをはじめとする有志の協力で、アルイルム女学院は2002年9月に設立されました。その学校に安定した支援を行うために、立ち上げられたのが、アルイルム女学院基金です。(詳細はこちら

<http://www.magazine.co.jp/100people/event/wish.jsp>)

未来の100人の村を、皆がより幸せに暮らせる村にできるかどうかは、私達一人一人の手にかかっています。まずは現状を知り、ありのままを理解し、そして、余力があるなら、身近なところから、たとえ小さなことでも、何か始めてみませんか。池田さんから私が教えて頂いた最も印象的な言葉を皆さんにお伝えして、このレポートの結びとさせて頂きたいと思います。

「けれど何よりあなたは生きている」

“Think Globally, Act Locally.”

### ●100人村サイト

<http://www.magazine.co.jp/100people/>

### ●東京都IYEOメールアドレス

[lovetokyoieyo@hotmail.com](mailto:lovetokyoieyo@hotmail.com)



2003年2月、IYEO会員数名と、ある国際理解セミナーに参加しました。講師は、ミリオンセラーとなった『世界がもし100人の村だったら』(以下「100人村」)を「再話」された、ドイツ文学翻訳家・口承文芸研究家の、池田香代子さん。「100人村」出版後、精力的に活動されている池田さんの熱心なお話に心を打たれ、是非東京都IYEOで講演して下さい!とお願いしました。池田さんは快く引き受けて下さり、実現したのが、去る6月8日、東日本飯田橋ビルで行われた、講演会—『世界がもし100人の村だったら』を通して見えてきた世界—でした。「100人村」に込められたメッセージ、日本に居る難民の方々の実情、国際社会の為に私達ができる身近なアクションの例など、お話は多岐に渡り、世界について、日本について、そして私達一人一人のあり方について、新たな側面から考えさせられるものでした。IYEO会員、一般の方合わせて65名が参加し、アンケートには「自分が今取り組んでいる草の根の活動を続けていく勇気もらった」「自分にできることをこれから行動に移していきたい」という積極的

## 埼玉県の報告会を終えて

2002年ミャンマー団員 藤野 淳

派遣国から帰国して、約5か月。普段の生活に戻り、正直、国際交流に対する意識が薄れかけていた時期でもありました。そんな時期にこの報告会があったことは、非常によかったと思います。

報告会の会議を最初に開いたのは今年の12月。それから毎月一度のペースで会議を重ね、本番を迎えました。今年の埼玉県の派遣メンバーは、今年の2月2日に東京で行われた航空機派遣の全体報告会の実行委員にもなっている人が多く、なんとなくですが、「埼玉の報告会はこんな感じにしよう」というプランが立っていたので会議の方向性もおのずと見えてきたように思えました。

ただ、広報活動に関しては、どのようにすれば来場者が増えるのかと悩みました。私はこの事業のことを、応募締め切り直前で知りました。ですから、まずはこの事業の認知度を高めることが、報告会では重要ではないかと考えていました。たとえ報告会には参加していただかなくても、こんな事業があるのだなと知っていただく。それも報告会広報の重要なポイントではなかったでしょうか。また、これは、全国の報告会とは違い、地元埼玉県の報告会ですから、効果的に広報活動を行うことが埼玉県の国際交流の意識向上につながると考え、結果的に友達や母校、県庁や市役所など地元密着の広報になりました。今回、一般来場者の方は20人ほどとなり、会場はいっぱいになり大盛況だったと思います。

本番前日に会場の設営にかかり、やっと会議の内容が形になってきたと実感しました。写真を貼っ

たり、民芸品を置いたり、事業・派遣国ごと、この事業のすばらしさをうまく伝えようと必死でした。初めて「世界青年の船」の写真を見て非常にわくわくしたことを今でも覚えています。

報告会当日は、もちろん民族衣装に着替え、来場者を迎えました。事業の説明から始まり、団ごとの発表。来場者の方々からは質問が飛び交い、この事業のすばらしさが伝えられたのではないかと思います。ただ、発表に時間がかかりすぎ、せっかく作ったブース展示を見てもらえる時間が非常に少なかったことが残念です。

報告会を終え、派遣団員間の連絡方法、広報活動など、様々な反省点が生まれました。当然、これらを来年の派遣団員の方々々に伝え、報告会に生かすこともまた重要な役割だと思います。来場者の方々にはアンケートにも協力していただきました。来場者のみなさんから見た報告会がどんなものだったのか。私たちでは気づかなかった部分がたくさんあります。反省点を十二分に生かし、来年の報告会は今年以上のものにしていけるよう、協力は惜しまないつもりです。

私個人的には、報告会活動は、この事業の重要な事後活動だと考えております。さらに、報告会は、これからの事業参加者のためだけではなく、既参加者同士の意見交換としての貴重な場と思います。派遣年度にかかわらずこの事業を通して生まれた「出会い」を大切にするためにも、報告会の実施は非常に有効な手段であり、この事業全体に与える影響も大きいものだと思います。国際交流の根底にある「出会い」というものを大切に生かしていくために、ぜひ楽しい報告会を開く事業参加者が多くでいただけたらと思います。

## 近畿リーダーズフォーラムから生まれたもの

第11回「世界青年の船」事業参加 寺西 一章  
(京都 IYEO)

2003.1のマクロコズムにて広報させて頂いた「近畿リーダーズフォーラム」を3月8日に大阪にて開催致しました。これは①IYEOのつながり・ネットワークのすごさを(再)認識する。②そのつながりを活かして、どんな社会的意義のある“ACTION”ができるかを提案し、実施するための案を考える事を主目的としたフォーラムでした。近畿から40名近くの参加者を迎え、熱い熱いアイデア交換が行われました。一時的な話の盛り上がりで終わるのではなく、ここから「実施」に向けて先、その先のことまで、短い時間の中で話し合うことができて、とてもいい刺激を得ることができました。また、その場で出たアイデアの一つであるチャリティーフリーマーケットを、活動の第一歩として実際に行おうという運びとなりました。

ここで重要なことは、参加事業・府県・職業・IYEOでの役職などにこだわらず、「IYEOの一員」であるという共通項でつながる人々が協力して企画を実行できたこと、さらに企画・立案→準備・打ち合わせ→実施という一連の流れで“ACTION”を起こせたことにあると思う。それはまさしく上記の①②に結びついている。この一連の活動を通じて僕は「このメンバーとならやったらできるやん」という確信を抱き、改めてこの人材・ネットワークが至極の宝石であることを実感できました。また、リーダーズフォーラムは、第11回「世界青年の船」メンバー中心で準備してきましたが、今回のフリーマーケットは第14回「世界青年の船」メンバーが中心に段取りをしてくれました。このように活動の主軸が移ってもしっかり機能したことが、単に個人の頑張りに頼らなくても活動は機能させることができるというIYEOの人材の厚さの実証なのです。

3月のフォーラムで出てきたアイデアはまだまだたくさんあります。今回のフリーマーケットで得たノウハウもまた活かしていきたいですし、「さあて、次は何をやろうか」と画策している今日この頃です。



▲ 元気いっぱいアピール

### チャリティーフリーマーケット開催まで

- 3/ 8 近畿リーダーズフォーラム開催
- 3/30 フリーマーケット打合せ  
出店申込
- 4/27 会場下見・打合せ  
出店準備、SCJと連絡等
- 5/18 出店@万博記念公園
- 5/19 SCJへ売上金寄付

## ～チャリティーフリーマーケット開催～



▲ (社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
<http://www.savechildren.or.jp>

5月18日(日)、以前から予想されていた天気とは打って変わって晴れ。搬入&開店準備のため朝8時15分、万博記念公園のお祭り広場前に集合だった。早朝にもかかわらず、10人ほどの有志が各々出展する商品を携えて集まった。

「さあ、開店準備だ!」と、みんなの商品を見てみると、ほんとにバラバラ。衣類を始め、本、CD、お皿やコップなどの雑貨、海外のお土産、こんな売れるの?と思えるおもちゃまであった。頭の中に不安がよぎった。どんな店になるのだろうか?ここに事業の写真展、チャリティー先のチラシも加わる。しかし僕が悩む間もなく、次々に商品が並べられていく。「これはこっち置いたほうがいい。」「あれはあっちやねー。」と。さすがはIYEOメンバー。「手際がよい!」と思った。

9時30分開店!買い物客の入りはいまひとつ。慣れていなくて声も掛けにくい。でもそんなことは言っていられない!「チャリティーです。」と叫びながら、お客さんの目を惹くように声を掛けていく。人もちらほら集まり「兄ちゃんこれ何ぼ?」とジーパンを

第14回「世界青年の船」参加青年 稲葉 信二  
(大阪 IYEO)

手に取ってるおじさんが声を掛けてきた。きたきた!「500円で!」と威勢良く答えると、「ほなちょーだい。」と満足した様子だった。いろんな面白いお客さんがこのブースを覗いてくれた。商品に目もくれないで、展示している写真に目が惹かれていた2人組の女子高生は、どんな内容なのか、どうしたら事業に参加できるのかなど熱心に質問していた。また中には、「おつり募金にまわしといて。」と言ってくれた若いカップルや、「いい活動しているね。」と声を掛けてくれた方など、私たちの活動が幅広く知ってもらえたはずである。もちろん外国の人も来ていた。気が付くと、滋賀IYEOの三浦さんは、イラクだけでなく、日本の子供にも援助が必要ではないかという話題でヨルダン人と白熱した討論を行っていた。フリーマーケットを通じてこんなにもいろいろ考えさせられ、人と出逢えるなんて思いもしなかった。嬉しかった。これがフリーマーケットの醍醐味かと思った。楽しみながら自分たちの活動も知ってもらえるなんて、なんてすばらしいことだろう。終了したときは、日中の暑さでみんなヘトヘト。でもみんな満足した様子で笑顔だった。

次の日、大阪にあるセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの事務所へ売上金を持って訪問した。1時間ほどの話の中で印象的だったことは、例えば、トイレを作るよりも、組織を維持することや活動を継続していかなければいけないとこのことの大変さを話してくださった。これを聞いたとき、私たちが今回始めたこの活動も継続して行動を起こしていかなければ意味がないと感じた。近畿という府県の枠を越えたい雰囲気ができあがってきていると、このフリーマーケットを通して実感できた。

## 坂本 達さんを迎えて

久喜高校定時制教諭 安野 和子



本校は、埼玉県東部に位置し、開校56年目を迎えた生徒数81名の定時制高校です。年齢は15歳～63歳ですが、真面目な頑張りやさんが多数を占めます。

総合的な学習の時間において、国際理解をテーマとして坂本達さんに講演を依頼しました。坂本さんとの出会いは、(財)青少年国際交流推進センターが実施した昨年の青少年国際理解セミナーでの講演でした。学校教育の永遠の課題である「人としての生き方、在り方」がここにあるのではないかと、思いやり、優しさと言う心地よい言葉が、実は壮絶な意味を持っているのだ、ということを経験した人々の笑顔や澄んだ瞳に感じたのです。そして、この感動を生徒にも是非伝えたいと願ったのです。感動の日から約1年後、坂本さんは大阪から埼玉県久喜市までリュックを背負ってやって来てくれました。私たちはこの講演に備え、プリントや写真を使い事前指導を行い、生徒たちを未来の世界へと誘いました。生徒の思いは好奇心

から冒険心へと変わっていったのです。

講演はたくさんのスライドが用いられ、体験からの語りは会場をすっかり魅了しました。一人一人が坂本さんの旅に、自分の心をどんどん重ねていったのです。坂本さんが、言葉や習慣も異なり、医療施設もなく食料も手に入りにくい国で生死の境をさまよったとき、生徒の顔は曇り、不安でいっぱいになりました。そして、村人の献身的な看病や、病を心配した村長が大切な鶏を届けてくれたことが語られると、ほっと胸をなで下ろしておりました。また、食べることは生きること、と感じられたとき、家族の夕食にと、捕ったであろう小さな魚を、旅人の坂本さんに笑顔で差し出した少年の心を、素直に受け止めておりました。幸せになれる気持ちや感動が何気ない日常にあること、相手を思いやり敬えることは、素直な心からということ、自分のとった行動や決めたことには自己責任という勇気があること、また、様々な人間性をも受け入れられる心の広さが大切なことなど、坂本さんの旅から実感できたことが、講演後の生徒たちの顔やアンケートに溢れておりました。

定時制には、小中学校時代、学校になじめず不登校だった生徒や全日制を中退し無気力な日々を過ごしている生徒もおります。そんな生徒が、身乗り出して坂本さんの話に聴き入り、スライドを食い入るように見つめていたのです。彼らの横顔や伸びた背中に坂本さんと旅をした五万五千キロの世界で、もう一人の自分に気づき、自分の夢



もいつかきっと…という気力と、生かされている自分を感じ、自分の生き方への選択肢をも増やせたのだと思います。

生徒は、明日もまた、土木作業、足場工事、工場での作業、コンビニのバイトなどの職場と学校という何気ない日々を精を出します。自転車で世界一周五万五千キロ「人の優しさに支えられた四年三ヶ月」という講演は私たちにさわやかな優しさと温もりを残していってくれました。



## 「にっぽん丸」船上リユニオンパーティー in 横浜, 2003

今年、第30回「東南アジア青年の船」が横浜港から出航することになりますので、「にっぽん丸」船上パーティーも初めて横浜で行うことになりました。今年も楽しい一時を、夕陽と共に過ごしてみませんか。船の大好きな仲間と共に、そして船に興味を持っているお友達を誘ってぜひご参加下さい。

日 時： 8月31日(日) 17:30(受付)～20:30

場 所： 横浜港 大棧橋 「にっぽん丸」

主 催： 日本青年国際交流機構(IYEO)

参加費： 7,000円(当日受付にていただきます。)

参加申込： 下記の連絡先まで、氏名、住所、電話番号  
内閣府事業参加歴又は紹介者名を記載の上  
8月27日(水)必着で、葉書、FAX、メールにて

お申込み下さい。乗船証をお送りしますので、当日は乗船証をお持ち下さい。

\* なお、事前申込みのない当日参加はできませんので、ご注意下さい。

\* 詳細内容を、8月初旬 IYEO ホームページに掲載しますので、御希望の方はぜひご覧いただければ幸いです。

### プログラム

17:30 受付

(ティ・サービス/船内見学)

18:30 パーティ

(エスニックなお料理をお楽しみ下さい。)

20:30 パーティ終了(下船)

連絡先： 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6階  
日本青年国際交流機構(IYEO) 船上パーティー係  
TEL 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436 E-Mail [hq@iyeo.or.jp](mailto:hq@iyeo.or.jp)



## IYEO会員の皆さまへの「お知らせ」ページ



## ★「ホーム・スイートホーム2 日傘の来た道」全国ディプロモーター上映日程表

高齢化の進む日本で、もはや介護は他人事と言いきれない社会事象になっています。とは言っても介護問題、ましてや介護問題を扱った映画となると「暗そう」「重そう」といったイメージから敬遠しがちです。そんな方にも観ていただきたいのが、この映画「ホーム・スイートホーム2」です。「釣りバカ日誌」でお馴染みの栗山富夫監督の冴え渡るユーモア、そんな監督の人望（私も個人的にお付き合いがあります）のもとに結集した豪華俳優陣の名演、愛媛県今治市の自然豊かな風景と映画の世界にぐいぐい惹きこまれるのは必至です。そして印象的なラストシーン…この映画の結末に正解はありません。介護に興味のある方もそうでない方も自分なりの解答を探してみてください。

(第20回中国派遣団副団長 山本元一)

日 時	開催地	主催/会場	電 話
7月10日	木 東京都	NPO都市住宅とまちづくり研究会 千代田公会堂	TEL 03-5207-6277
9月9日	火 群馬県	利根保健生活協同組合 利根沼田文化会館	TEL 0278-22-4321
10月21日	火 大阪府	ナルク・いちょうの会 中之島中央公会堂	TEL 06-6947-0411 http://nalc.jp
10月26日	日 大阪府	堺市社会福祉協議会 堺市福祉会館ホール	TEL 072-232-5420
10月27日	月 埼玉県	上尾市明るい福祉のまちづくり推進 協議会&上尾市社会福祉協議会 上尾市福祉会館	TEL 048-773-7155
11月14日	金 奈良県	奈良県民共済 大和高田さざんかホール 大ホール	TEL 0742-20-0606
2004年 1月24日	土 茨城県	土浦市民会館	TEL 03-5269-1192



☆上映時間や料金等は各問合せ先にお問合せください。

「ホーム・スイートホーム」制作委員会 <http://www.minnanoeiga.com>

シネマエンジェル TEL 03-5269-1192 FAX 03-5363-5327 E-mail: info@minnanoeiga.com

## ★第7回「青年の船」の会会員の皆様へのお知らせ

お元気でご活躍のことと存じます。この度、30周年記念の集いを下記のとおり開催することで準備を進めております。まだまだ随分先のことですが、より多くの皆さんにご参加願えるように早めのお知らせをさせていただきます。なお、詳しいご案内は9月頃皆様のもとにお届け致しますので楽しみにお待ちください。

どうか皆様、今からお気軽にお誘い合わせの上ご参加下さいますようご案内致します。

日 時 2004年2月14日(土)～15日(日) 場 所 JR京都駅前 京都タワーホテル

\*なお、開催に向けてお手伝い頂ける方、ご一報下さい。お待ちしております。

幹事代表 鷹影 久義 TEL/FAX 0745-45-6205

長谷川鈴子 TEL 075-781-7333 FAX 075-712-3069



## 日本青年国際交流機構第19回全国大会 兵庫大会

～参加応募用紙は、9月号に同封します～

阪神淡路大震災は、第7回「世界青年の船」の出航直前の大惨事でした。「世界青年の船」の外国青年からの寄附や支援ボランティアの派遣も含めて、ささやかながらIYEOも直後の復興支援に協力することに努めました。あれから9年。神戸の街は元気な姿に立ち戻っています。神戸の皆さんの言葉によれば、「まだまだのところもあるよ。」とのことですが、多くの方の努力によりここまでの復興を遂げられたことに敬意を表します。

そんな神戸で、IYEOの全国大会を開くことにしました。皆さんの多くの参加をお待ちしています。

1. 目的 内閣府、地方公共団体等の行う青少年国際交流事業の既参加青年が集まり、地域における事後活動の推進状況を報告するとともに、全国的な事後活動を更に充実させるための方策について積極的に意見交換を行い、既参加青年相互の交流と研さんを図り、今後の国際交流活動及び地域社会における諸活動の推進に貢献するとともに、国際交流活動を一般の方にも紹介していくことを目的とする。
2. 主催 内閣府政策統括官(総合企画調整担当) (財)青少年国際交流推進センター  
日本青年国際交流機構 兵庫県青年国際交流機構
3. 後援 兵庫県(予定)、神戸市(予定)、(財)兵庫県青少年本部(予定)
4. 主管 日本青年国際交流機構第19回全国大会兵庫大会実行委員会
5. 期日 平成15年11月8日(土)～9日(日)
6. プログラム:
  - 第1日目 11月8日(土)
    - 12:30～ 受付
    - 13:30～14:00 開会式
    - 14:15～15:45 講演 <テーマ:阪神淡路大震災後の活動に焦点をあてた講演を予定>
    - 16:00～17:30 テーマ別分科会及び文化交流会  
(並行して兵庫県及び全国の国際交流活動及びボランティア活動展示)
    - 18:00～ チェックイン
    - 19:00～21:00 歓迎交流会
  - 第2日目 11月9日(日)
    - 9:00～10:00 日本青年国際交流機構活動報告  
閉会式
    - 10:30～ オプショナルツアー(兵庫県内)
7. 会場 シーサイドホテル舞子ビラ神戸 神戸市垂水区東舞子町 18-11

## 平成15年度ブロック大会について

<北信越ブロック大会 ～水・山・緑…信州の夏 涼しく過ごして、人とあたたまろう～>

今年度北信越ブロック大会は、自然豊かな長野県駒ヶ根市にて開催されます。会場となる青年海外協力隊訓練所の施設見学をはじめ、開発教育ワークショップと題して、「国際交流」と「国際協力」について考える機会を設けました。その他、懇親会および事業報告会を予定します。また、オプションツアーでは、中央アルプス千畳敷、養命酒工場、駒ヶ根高原、川原にてバーベキューなどを考えています。今年の夏はさわやかな信州にどうぞお越し下さい。

- ◆ 期 日：平成15年8月9日(土)～10日(日)
- ◆ 開催場所：国際協力事業団 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所  
〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15 (TEL: 0265-82-6151 (代))
- ◆ 参加費：宿泊(全日程参加) 一般8,000円 学生5,000円  
\*懇親会費込、1泊2日朝食付、小学生以下についてはお問い合わせ下さい
- ◆ お問い合わせ先：  
信越ブロック青少年の国際交流を考える集い実行委員長 矢口 稔  
Tel: 0261-62-4453 FAX: 0261-62-4459 E-Mail: minoru@azumino.com

\*詳細は <http://www.iyeo.or.jp/nagano/2003/> をご覧下さい。

### 編集後記

いよいよ7月。国際交流事業の季節を迎えました。今月は、2事業の日本参加青年事前研修、そして「国際青年育成交流」の招へい事業が行われ

ます。様々な厳しい要因もありますが、平和な国だからこそできる人材育成の具体策として、青年国際交流事業を充実したものにしていきたいと思っております。

\*本誌の年間講読をご希望の方は、奨青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 7月号 Vol.53 2003年7月1日発行 (隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail [hq@iyeo.or.jp](mailto:hq@iyeo.or.jp)

URL <http://www.centerye.org>

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力：内閣府政策統括官

(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定 価：198円 (本体189円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

## 「国際交流体験をどう活かすか？」～ワークショップを通じて～

「ファシリテーション革命」著者の中野民夫氏を招いてのセミナーを実施しました。本来は、もっと時間をかけて行うところを、短時間でエッセンスを取り出して組み立てていただきました。



▲ 中野民夫氏 明るく楽しげにお話しいただきました

▼ 参加者とともに、自己紹介タイム



「印象に残る国際交流体験」  
を描いてみましょう  
◀



描いた絵を使ってお互いに説明  
◀



# 極上のおもてなし、新生！ につぼん丸

2003年春、3回のリニューアルを終えて「新生！」につぼん丸が船出しました。  
いま日本で一番フレッシュなクルーズ船、につぼん丸へようこそ！



キール運河を行くにつぼん丸:21,903トン (撮影:佐藤 秀明)

主催

## 商船三井客船

ボンド保証会員  
国土交通大臣登録旅行業第946号  
日本旅行業協会正会員

〒107-8532 東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル5F

お問い合わせ

クルーズ  
デスク



# 0120-791-211

<http://www.mopas.co.jp> 大阪支店 (06)6449-470



冒険する生活  
にっぽん丸



客室(スイートルーム)



客室(デラックスルーム)



客室(ステートルーム)



(イメージ)



(イメージ)



(イメージ)

# 感動の航海をお約束する 【にっぽん丸】クルーズ

詳しいパンフレットをご用意しております。  
どうぞご請求ください。

紅葉のみちのく 十和田・蔵王、そして東北の名湯へ

## にっぽん丸 秋クルーズ

2003年10月15日(水)～10月19日(日)5日間 **170,000円～596,000円** <sup>注1</sup>  
寄港地 横浜～八戸～相馬～横浜

グループ (スイートルームB:3名1室使用) スイートルーム(2名1室使用)

健康をテーマに、秋のノンストップ島めぐり

## 秋の伊豆諸島周遊ウエルネスクルーズ

2003年10月21日(火)～10月23日(木)3日間 **78,000円～296,000円**  
寄港地 横浜～横浜

グループ (スイートルームB:3名1室使用) スイートルーム(2名1室使用)

紅葉を愛でる旅、錦江湾から北上して豊後へ

## 秋の九州路クルーズ

2003年10月31日(金)～11月3日(月・祝)4日間 **126,000円～458,000円**  
寄港地 神戸～鹿児島～中津～神戸

グループ (スイートルームB:3名1室使用) スイートルーム(2名1室使用)

紅葉狩り、陶磁器鑑賞、温泉めぐりと日本の美を堪能

## 秋の日本一周クルーズ Aコース **405,000円～1,422,000円** <sup>注2</sup>

2003年11月4日(火)～11月13日(木)10日間  
寄港地 神戸～東京～室蘭～福井～浜田～唐津～神戸

グループ (スイートルームB:3名1室使用) スイートルーム(2名1室使用)

山、川、海が織りなす秋の絶景を堪能

## 紅葉の熊野路・南紀新宮クルーズ

2003年11月24日(月・祝)～11月26日(水)3日間 **78,000円～284,000円**  
寄港地 横浜～新宮～横浜

グループ (スイートルームB:3名1室使用) スイートルーム(2名1室使用)

瀬戸内海に憩い、門司港レトロ地区に遊ぶ

## 紅葉の小豆島・レトロタウン門司クルーズ Aコース

2003年11月26日(水)～11月30日(日)5日間 **128,000円～524,000円**  
寄港地 横浜～名古屋～小豆島～門司～名古屋

グループ (スイートルームB:3名1室使用) スイートルーム(2名1室使用)

奄美群島日本復帰50周年記念

## 奄美群島復帰50周年クルーズ

2003年12月1日(月)～12月7日(日)7日間 **254,000円～878,000円** <sup>注1</sup>  
寄港地 東京～名瀬～古仁屋～与論～東京

グループ (スイートルームB:3名1室使用) スイートルーム(2名1室使用)

※最少催行人員:各コース2名

※詳しい旅行条件を説明したものをお渡ししていますので、事前にご確認の上、お申し込みください。

※添乗員は同行しませんが船内ではスタッフがお世話します。

※注1:熟年割引代金の設定があります。

注2:早期申込割引代金の設定があります。

美しい時代へ — 東急グループ



旅も楽しめる合宿にしたい。



急に1週間の全国出張になった。

## ひとりひとりに、満点旅行。

ONE  
to  
ONE



家族水入らずで楽しめるプランを。



北から南まで温泉三昧したい。

### IYEO会員の皆様とその同伴者に限り夏休み 海外旅行キャンペーンを実施いたしております。

8月29日(金)までに東急観光新宿支店でお申し込み頂くと、  
7月1日から9月30日出発のジャルパックの旅行商品、  
I'LLが7%、AVAが5%割引となります。  
この機会をお見逃しなく!!

#### お申し込みとお問い合わせ

東急観光 新宿支店 IYEO係り  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-20-2  
TEL 03-3340-0621 FAX 03-3340-0628  
E-MAIL: XLX02130@nifty.ne.jp



国土交通大臣登録旅行業第38号  
C日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員  
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号  
<http://www.tokyukanko.com>  
<http://tour.tokyu.com>